

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスえるふ		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 19日		～ 2025年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 12
○従業者評価実施期間	2025年 2月 19日		～ 2025年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 26日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者さんにとって安心な居場所の1つとなっており、通所を楽しみにしている。	活動プログラムは固定化しないよう、保育士が1か月の活動表を作成し、その後の会議で内容の最終決定を行っている。また、季節の行事やイベントを取り入れ、長期休みや休日利用日などは外出を計画するなどの工夫をしている	役割分担なども事前に相談、認識し、共有を図り、スムーズな支援につなげたい。そして、さらなるチームの連携を図りたい。また、業務終了後の打ち合わせができておらず、振り返りが不十分なことから、さらなる充実を図る観点からもできる職員で打ち合わせを行い、記録で残し、他職員との共有をはかっていく。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解が持っており、共感的な支援ができている。	家族の相談に応じ、要望に対し臨機応変に対応し、ご家族の不安の軽減に努めている	今後も利用者様に応じて臨機応変の対応を行い、相談や申し入れができるよう周知を図り、発信しやすい雰囲気づくりを心がける。また、家族支援として研修や保護者が集うイベントなどの情報発信を行っていく。必要に応じて保護者やきょうだいが交流できるよう場所の提供を行い、保護者会につなげていく。
3	事前に服薬内容や病状の把握を行い、医師の指示に基づき、食物アレルギーのある利用者についても食事提供を行っている。また、医療的ケアのある利用者様にも複数名の看護師で対応を行っている。	複数の看護師が勤務しており、1年に1度のフェースシートの聞き取り、指示書、医療的ケア判定スコアの更新で病状の把握をしている。てんかんの発作時や突発的な変化があったときにも迅速に対応できるよう研修を受け、伝達学習なども行っている。	同様の対応を行って、利用者、保護者様の不安の軽減に努め、看護職員以外の職員も積極的に関わり、観察の仕方や、基本的な対応などの学習を行うことで緊急時など看護職員の指示のもと緊急時もスムーズに対応できるようにしていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が設けられていない。また、地域の方々との交流が少ない。	定期的に地域の他の子どもたちと交流する機会がなく、地域住民の方々が高齢のため行事の声掛けなどが難しい。また、感染流行期などは交流のための外出は控えている	引き続き、長期休みや休日に地域の公共施設やイベントなどへの参加で地域の方々との交流を図る。また希望をとり、放課後児童クラブや児童館との交流ができるようにしていく。
2	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が保護者に周知、説明がされていないことがあった。	書面での交付ができていなかった。	書面に交付をして改めて説明をしていく。また訓練は引き続き定期的に行っていく。
3	地域の児童発達支援センターとの連携が弱い	地域の協議会などへの参加はしており、地域の児童発達支援センターとの交流があるが、支援でのスーパーバイズや助言や研修を受ける機会がない。	地域のセンターとの交流を引き続き行い、必要に応じて助言や研修等の情報を求めていきたい。